テーション部における協力活動から——

（第1衛生）　青木　智子

リハビリテーションとは，障害を受けた人にまた権利を与えて生活を営ませる，または残つた機能で再び人生に適応することを意味する．今までただ薬を与えて安静にしていた患者の立場をさらにおしすすめて，身体的に，心理的に，社会的に，経済的に，職業面で復帰させようという試みがそれである．

リハビリテーション部門において一般的に考えられる医療ソーシャルワーカーの役割は，医療費や生活保障の問題ととり組むだけでなく，医療と教育，医療と職業面との接点をひろげ，社会面の種々のサービスが受けられるよう努力することにある．すなわち医療チームの中で教育，職業，社会の3つの側面との連絡調整にあたる役割をになうことになる．本学付属病院におけるリハビリテーションサービスは，現在理学療法部門を強化し，これをセントラルサービスとして行なうという組織体制のもとにある．本学ならびに付属病院の中でのリハビリテーションに対する受け止め方や，関心，今後の方向は未知数であるが，すべての条件が劣悪であるにもかかわらず，良いチームワークの中ですすめられていることを報告したい．昭和47年10月以来，衛生学教室よりチームに参加し，ささやかな協力活動を続けてきた医療ソーシャルワーカーとして，大学病院における医療社会事業の出発点に立ち，また同時に衛生学教室員として，学生の地域保健実習指導に，ソーシャルサービスへの認識を与えること，医療の場に社会的視点を導入することを試み，成果をあげつつあることを報告するものである．

9．リハビリテーションの問題点（教育と臨床）

（中央リハビリ）　○山形　恵子・矢尾板孝子

福祉国家日本のリハビリテーションは，国状もからみ，欧米諸国に比べるとまだ未発達な段階にある．

大学病院の役目が，医師の教育・育成にあるとされているが，日本ではリハビリテーションの講座を持つた大学はなく，したがつて医学生にも専門の講議は行われていない．僅かにリハビリの必要性，重要性を感ずる先輩により，細々と部分的に実習の場で与えられているのが実状である．

他方，リハビリテーションに参加するパラメディカルの各種専門職員は，国立で2校，都立で1校作られ，高度の有能な職員が徐々に増えて来た．また国家試験によりＰＴ，ＯＴと認められた有能な職員も配置されて来たが，これらメンバーと協力し作業をすすめる医師側に，未だ専門のコースも指導もなく，種々な困難を生じている．

付属病院の機能面からみた，当リハビリテーション部は，各科医師に徐々に有効性は認められても，必要性の度合が様々で，充分利用，協力が行われているとはいえない．

新学期を前に，48年度のカリキュラムに，リハビリテーションの意義を教える時間や適切な講師の導入を望むと共に，本リハビリテーション部の臨床面の問題点を再討議し，先生方の御意見を伺いたいと思う．

10．〔症例検討会〕慢性アルコール中毒の1例

司会　柴田収一教授

追つて全文を本誌に掲載する．

11．〔綜説〕痔核手術（Closed Method および Open Method について）

（外科）　倉光　秀麿

痔核手術には，従来より種々の方法が考案され，またその歴史も古く，Closed Method の代表的なものとして Whitehead 法（1882年），Braatz 法（1902年）等が有名である．これらの Closed Method に対して，1926年英国 St. Mark's Hospital で始められた Open Method がその後普及し（Milligan または Morgan法）現在欧米では痔核手術は大部分この Open Method で行われているのが現状である．本邦では近年まで，Closed Method が主流を占めていたが，最近になり Open Method の普及をみるようになつた．当教室における最近10年間の痔核手術症例数は 352例で，Closed Method 128例，Open Method 225例，それぞれ52例，91例に術後の Follow Up を行ない，両者の比較検討を行なつたので，手術手技ならびにその予後について詳細にのべた．